

教 科	科 目 名	単 位 数	学 年	学 科 または コ ー ス	履 修
商 業	商品開発	2	3	食料環境科	選択

科目のねらい	商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させるとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。
使用教材など	商品開発（実教出版）

期	月	時数	学 習 内 容	学 習 の ポ イ ン ト
一 学 期	4 5 6 7	2 3	第1章 商品と商品開発 1. 商品の多様化 2. 商品開発の意義と手順 第2章 商品の企画 1. 環境分析 2. 商品開発の意思決定と開発テーマの決定 3. 市場調査 4. 商品コンセプトの立案と商品企画書の作成	・商品が有形財だけでなくサービスや権利なども含めたものであることを学び、技術革新や経済の国際化などによる多様な商品提供の現状について理解する。 ・商品開発の意義及び商品のライフサイクルについて理解する。商品開発の手順と考え方について、商品開発の具体的な事例を取り上げて学びます。
二 学 期	8、9 10 11 12	3 1	第3章 商品の開発 1. 商品の仕様と詳細設計 2. 試作品の作成と評価 3. 開発商品のテスト 4. 事業計画の立案 第4章 商品開発とデザイン 1. デザインの基礎 2. パッケージデザイン 3. グラフィックデザイン 第7章 総合実習	・商品本体、容器、包装などの商品仕様の決定の流れについて理解する。商品仕様に関する具体的な事例を取り上げ、開発者のねらいについて考察します。 ・商品仕様の詳細設計に基づき、試作品を作成し、評価の項目と基準を設定して試作品を評価し、設計・仕様の変更を行う過程について理解する。 ・配色や構成などのデザインに関する基礎的な知識と技法を習得します。
三 学 期	1	9	第5章 商品開発と知的財産権 1. 知的財産権の内容 2. 知的財産権の取得 3. 知的財産権の活用 第6章 商品流通と流通を支える活動	・知的財産の保護の重要性について、知的財産権の侵害に関する具体的な事例の考察を通して認識します。 ・特許権、実用新案権、意匠権、著作権、商標権の概要とビジネスにおける活用の意義を理解します。

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	●商品開発について関心を持ち、消費者の視点に立った商品の企画・開発に主体的に取り組むことができる。	●商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して、思考を深めている。	●商品を企画・開発し、商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付け、活用することができる。	●商品開発に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評 価 方 法 主 たる	・行動の観察 ・ノート、作品の点検	・行動の観察	・作品の点検	・行動の観察 ・定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評価にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

評 価 項 目 ・ 学 習 に あ た っ て ・ 評 価 点		
①定期テスト	毎学期末に筆記テストを行います。	50点
③技能・知識・理解	作品制作を行うにあたり、身につけた知識が活用されているか評価します。	15点
③興味・関心・出席	毎時間に興味を持って学習、作品制作していたかを評価します。	15点
④提出物	各単元の提出物が完成して出されているか点検します。	20点